

日交研シリーズ A-624

平成 25 年度研究プロジェクト

「維持管理・人口減少時代における道路ネットワークの再構築に関する研究」

刊行：2015 年 3 月

維持管理・人口減少時代における道路ネットワークの再構築に関する研究
Restructuring Strategies of the Road Network on the Era of Population Reduction in Japan

主査：太田 和博（専修大学教授）

Kazuhiro OHTA (Senshu University)

要 旨

本研究は、平成 25 年 10 月に刊行した日交研シリーズ A-577「道路の整備と維持に関する基本制度のあり方に関する研究」報告書の提言 5「道路ネットワーク縮減のための制度整備」の具体化を検討するために企画された。道路ネットワーク縮減の検討は、橋梁の老朽化、つまり橋梁の廃止がその端緒になると想定し、現在において橋梁の老朽化に対してどのように道路管理者が対応しているかの実態を把握し、そこから道路政策上の含意を引き出すことを具体的な目的とした。

高速道路会社および国が管理する橋梁、および都道府県・政令指定都市管理の国道に架かる橋梁については従前から適切に点検・管理がなされていることから、従前より懸念されてきた地方自治体管理の老朽化橋梁を対象として実態把握に取り組んだ。具体的には、宮崎県および熊本県の通行止めもしくは通行制限が課されている橋梁を視察するとともに、宮崎県および宮崎県内市町村にヒアリング調査を実施し、老朽化橋梁管理の実態、課題、将来に向けた問題点および橋梁廃止の可能性を検討した。

現地調査等から多くの情報提供を受けたが、本研究の目的に照らして得られた知見は多くはない。なぜなら、市町村管理の橋梁の老朽化への懸念は強いものの、現時点では、道路交通に重大な支障をきたすような事態（突然の落橋による通行途絶、あるいは予算不足による維持放棄に起因する通行止めなど）は起こり得ないことが判明したからである。本報告書では、初期の目的を十分達せられなかったものの、現地調査等で得られた事実および知見を整理し、提示している。

キーワード：道路橋梁、維持管理、老朽化、意思決定制度

Keywords : Highway and Road Bridge, Monitoring and Maintenance System, Aging and
Deterioration of Bridge, Decision Making System